

戦国の世から江戸の世へ	( )組	氏
	( )番	名

あきらさんのクラスでは、「戦国の世から江戸の世へ」の学習のまとめとして、「自分が3代将軍の徳川家光になったつもりで、祖父の徳川家康あてに手紙を書こう!」ということになり、あきらさんは下の資料1～資料5などを集め、次の手紙を書いていきました。

あきらさんの書いた手紙 (一部)

徳川家康 様へ

徳川家光より

私は、おじいさんが江戸に開いた幕府の力をさらに安定させ、戦乱のない世の中が続いていくように願い、いろいろなことを行いました。

例えば、おじいさんの頃に各大名が自主的に行っていたことを制度化して、多くの大名に対して、㊦ 江戸と自分の領地を1年おきに交代で勤務し、江戸に勤務する時は ( A ) 月中に江戸に来させるよ

また、㊧ 戦国時代がいに勝って自分の領土を入れるようになって欲しい

は、「戦に力を

資料1から「出発日が3月上旬であること」、「かかる日数が40日であること」を読み取り、「4月中に江戸に到着するようにしていた」ということに気付きましょう。

(1) 手紙中の下線部㊦の制度を何というか書きましょう。

さんきんこうたい  
参勤交代

(2) 右の資料1は、日向国 (今の宮崎県) の、

4 月

【資料1 江戸までの移動】

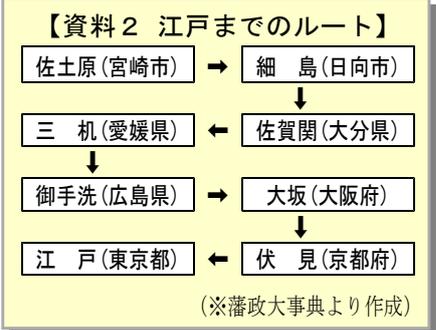
藩の名	出発日	かかった日数
高鍋藩	3月3日	約40日
飫肥藩	3月1日	約40日

(※藩政大事典、宮崎県史より作成)

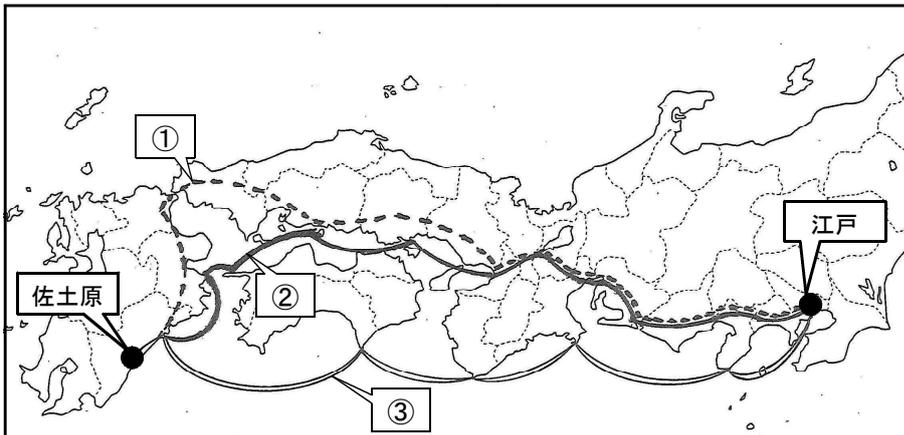
資料1から「出発日が3月上旬であること」、「かかる日数が40日であること」を読み取り、「4月中に江戸に到着するようにしていた」ということに気付きましょう。

(3) 佐土原藩の資料2をもとに、佐土原から江戸までのルートとして適するものを、次の図の①～③から1つ選んで記号で答えましょう。

②



【図 佐土原から江戸までのルート】



(※宮崎県史より作成)

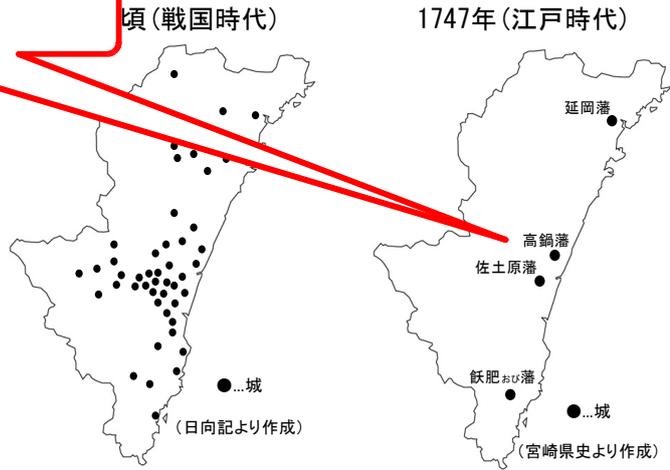
「一国一城令」によって1つの国（藩）の居城は1つずつとなりました。

資料3を見つけ、戦国時代にはたくさんあった城が、江戸時代には4つに減っていることに気がきました。

その理由を説明するときを使う資料として、最も適するものを、下の①～③から1つ選び、番号を書きましょう。

②

【資料3 日向国の城の数】



① 諸国の城は、修理するときは必ず届け出ること。ましてや城の新築は絶対にしてはならない。

② 一国（藩）においては、大名が居住あるいは藩の政治を行う城1つを残して、その城はすべて廃城とすること。

③ 最近、屋敷の建設などがぜいたくになってきているので、今後はぜいたくにならないよう心がけること。

(5) あきらさんは、前の手紙中の下線部④について、下の資料4を見つけ、「江戸時代になってから、全国・宮崎ともに耕地面積が急激に増えている」ことに気がきました。資料4と資料5とを関連づけながら、その理由を考えて書きましょう。

大名たちが（藩内の米の生産をあげるために）用水路をつくるなどして、新しい田を増やすこと（新田の開発）に力を入れたから。

【資料4 耕地面積】

■日向国の耕地面積



■全国の耕地面積の変化※1450年を100としたときの割合



江戸時代の前まではほとんど耕地面積は増えておらず、江戸時代になってから増えていることがわかります。

【資料5 江戸時代の用水開発（日向国）】

時代	年代	用水などの開発
鎌倉	1185年	前田堰・小井手堰(都城市)
	1248年	稚児殿池(西都市)
江戸	1640年	松井用水路(宮崎市)
	1685年	南前用水路(都城市)
	1701年	木森井堰(国富町)
	1713年	堂本井堰(えびの市)
	1722年	杉安井堰(西都市)
	1734年	岩熊井堰(延岡市)
1845年	五ヶ所用水(高千穂町)	

※井堰は...流水をせき止めるための建造物

江戸時代に入るとたくさんの堰や用水路がつけられていることがわかります。